

人口減少や電力料金の高騰など、下水道経営は厳しさを増しており、エネルギー消費量の大きい水処理施設等のさらなる省エネ対策が必要

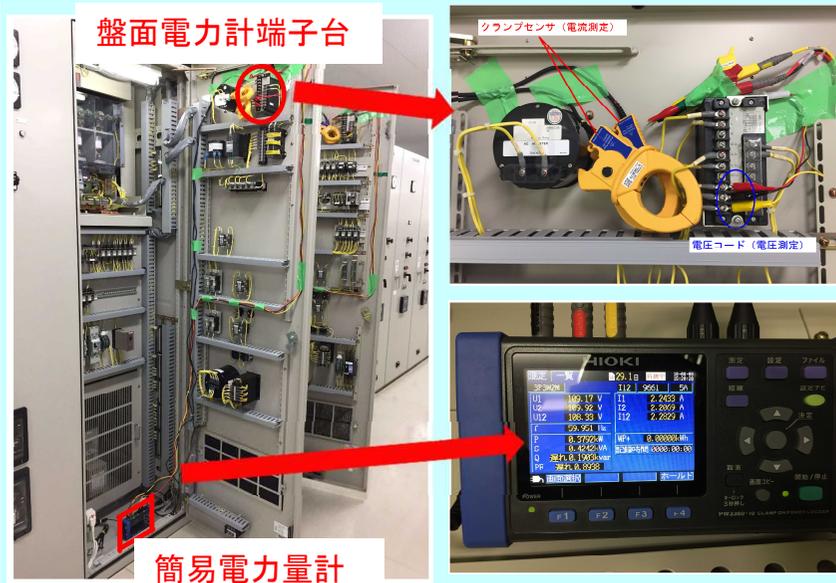


- 従来省エネと思われてきた運転手法についても十分な効果が発揮されていないケースがある。
- 主ポンプや送風機の省エネには、運転方法を見直すことにより改善できる事例が多い。
- 省エネ型設備の開発が進んでいる。

2019年6月 マニュアル(案)公表

本マニュアルでは、下水処理場において、消費電力分析を行うことによる運転方法の評価、改善・見直しや、最新の省エネ設備の導入効果について、設備ごとに具体的な事例を用いて説明

消費電力分析のための簡易電力計の設置



運転方法の改善

- ✓ 主ポンプ
- ✓ 最初沈殿池
- ✓ 送風機
- ✓ 水中攪拌機
- ✓ 汚泥貯留槽攪拌機

省エネ設備の導入

- ✓ 高効率散気装置
- ✓ 省エネ型攪拌機
- ✓ 汚泥濃縮機
- ✓ 消化タンク攪拌機
- ✓ 汚泥脱水機
- ✓ 汚泥焼却炉

効果の確認

二軸管理ガイドライン(※2018年3月公表)